

ルー・リード／ベルリン (2007)

LOU REED'S BERLIN

メディア 映画

ジャンル ドキュメンタリー 音楽

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 85分

初公開日 2008/09/27

公開情報 バップ=ロングライド

映倫 PG-12

【キャッチコピー】

愛はいつも悲劇となる――。

伝説のアルバムがステージに甦った奇跡の夜

【解説】

“ヴェルヴェット・アンダーグラウンド”脱退後、ソロとして活躍していたルー・リードが73年に発表したコンセプト・アルバム『ベルリン』。商業的な成功は収められなかったものの、東西に分断されたベルリンの頹廢的イメージを背景に男女の背徳の愛を綴ったこの一枚は、今なお彼の最高傑作の呼び声も高い歴史的な名盤。しかし、発表以来ステージで演奏されることはなく封印されていた『ベルリン』が、2006年冬に全曲ライブ・パフォーマンスという形で復活した。本作は、ニューヨークで5日間にわたって行われたこの画期的なライブの様子を、「潜水服は蝶の夢を見る」のジュリアン・シュナーベル監督がカメラに収めた音楽ドキュメンタリー。また、本編中に挿入される娼婦キャロライン（エマニュエル・セニエ）を主人公にしたショート・フィルムは、シュナーベル監督の娘、ローラ・シュナーベルが演出を担当した。

【クレジット】

| | | |
|------------|---------------|---------------------------|
| 監督 | ジュリアン・シュナーベル | Julian Schnabel |
| 製作 | ジョン・キリク | Jon Kilik |
| | トム・サリッグ | Tom Sarig |
| 製作総指揮 | スタンリー・バックター | Stanley Buchthal |
| | マーヤ・ホフマン | Maja Hoffmann |
| 撮影 | エレン・クラス | Ellen Kuras |
| 編集 | ベンジャミン・フラハティ | Benjamin Flaherty |
| 音楽 | ルー・リード | Lou Reed |
| ショートフィルム監督 | ローラ・シュナーベル | |
| 出演 | ルー・リード | Lou Reed |
| | スティーヴ・ハンター | Steve Hunter |
| | フェルナンド・ソーンダース | Fernando Saunders |
| | アントニー | Antony |
| | エマニュエル・セニエ | Emmanuelle Seigner キャロライン |